

## 第 5 回日本予防理学療法学会学術大会

### 開催趣意

リハビリテーション医療の一翼を担う理学療法は 50 年間の臨床実践の中で患者の機能回復、地域・社会復帰を目的に障害と向き合い、さらに、疾患別、病期別の理学療法の確立が強化され発展してきました。そして、運動を介入手段とする専門家として「疾患の重症化・再発予防（3 次予防）」は勿論のこと、「疾患の発症予防（2 次予防）」、「活力・健康増進（1 次予防）」へと、まさにカウントダウンのように健康寿命の延伸に向けた活動を発動していく事がこれからの理学療法士の姿であると考えます。このような意味を込めて、今回の学会テーマを「再発予防、疾病予防、健康増進への理学療法オペレーション」といたしました。オペレーションは手術という意味で身近な用語ですが、業務、管理、作戦などの意味もあり、「次代に向けた理学療法分野を切り開く作戦」会議や報告の場になればという期待を込めています。とりわけ、今回の学会では予防理学療法領域と関連が強く、また、専門的な介入が求められる産業理学療法部門（以下、産業部門）と栄養・嚥下理学療法部門（以下、栄養・嚥下部門）との共同開催を企画して、学術活動と職能活動の情報共有や発展に向けた連携促進を図りました。

学術大会企画においては、特別講演、教育講演、パネルディスカッション、シンポジウム、市民公開講座を計画しています。特別講演では、「健康日本 21（第 2 次）と理学療法士」をテーマとし、教育講演では海外講師を招聘して「非感染性疾患（NCD）予防に向けた理学療法士の取り組み」をテーマとしています。パネルディスカッションは 2 部構成で、1 部は理学療法士以外の他職種に「予防領域での多職種協同参画の模索と将来展望」を、もう 1 部は「予防理学療法領域が行うべき研究課題とその展望」として理学療法士の指定演題を募集します。また、シンポジウムでは、「予防理学療法領域における産業・栄養・嚥下部門の活動から相互作用を見出す」をテーマに、それぞれの代表運営幹事による活動紹介とディスカッションを通じて学術活動と職能活動の相互作用を確認する予定となっています。

さて、日本予防理学療法学会学術大会は今回で 5 回目を迎え、連合大会の形から真に分科学会のアイデンティティを独立させる学術大会として意義を果たさなければなりません。2015 年 2 月 8 日に東京で開催された第 1 回学術集会（大淵修一集会長）、2015 年 12 月 19 日に札幌で開催された第 2 回学術集会（古名丈人集会長）、第 3 回は 2016 年 5 月 27-29 日に札幌で開催された第 51 回日本理学療法学会学術大会連合大会（大淵修一集会長）、そして、第 4 回の 2017 年 5 月 12-14 日に幕張で開催される第 52 回日本理学療法学会学術大会連合大会（島田裕之集会長）に続くことになります。第 5 回日本予防理学療法学会学術大会では、多数の演題から新規性ある柔軟な発想と可能性、科学性を追求し、新たな発展に向けた議論の場を目指します。準備委員会一同の思いと共に学術大会の開催趣意といたします。

第 5 回日本予防理学療法学会学術大会

学術大会長 廣滋 恵一